

海を越えた絆の日韓交流

佐賀県唐津市企画政策課企画政策係 神田 浩樹

唐津市の姉妹都市

唐津市は、玄界灘に面しアジア大陸に近い立地条件にあり、古くから大陸との歴史的な結びつきが強く、国際交流事業の推進として、大韓民国では全羅南道麗水市および済州特別自治道西歸浦市と姉妹都市提携を締結しています。それぞれの都市とは、文化、教育、スポーツといった分野で市民交流を主体とした友好交流を図っています。

まずは、姉妹都市提携締結の経緯を紹介します。

1つ目の姉妹都市は、全羅南道の麗水市です。

玄界灘を挟み地理的にも近く、歴史的にも密接な関係の麗水市とは、1970年11月に唐津ロータリークラブと麗水ロータリークラブが姉妹関係を結んだことを皮切りに、青年会議所など両市内の各種団体が次々と姉妹関係を結んだことから、市民ぐるみの機運が高まり、1982年3月5日の行政間の姉妹都市提携締結に至りました。現在は、9団体が姉妹関係を結び官民一体となった交流が継続的かつ活発に行われています。

2つ目の都市は済州特別自治道の西歸浦市です。

1991年、西歸浦市が下水道施設の視察で唐津市を訪れたのがきっかけで、その後、ハウスみかん施設や水産加工団地の視察や議員団の相互訪問で親交を深め合い、農水産業また唐津市と類似した自然景観を有した観光業など非常によく似た両市は1994年9月14日に姉妹都市提携の締結に至りました。現在は西歸浦市のある済州島の人気トレッキングコースであるオルレコースをモデルとした、唐津市版オルレコースを設置するなど、観光面の施策交流も行っています。

また、両市とは相互職員交流事業を行っており、現在までに唐津市から麗水市ならびに西歸浦市へ

は32名の職員を派遣し、麗水市からは16名、西歸浦市からは14名の職員を受け入れ、相互に交流を図ってきました。

姉妹友好都市30周年記念事業実施の経緯

2012年は、唐津市と麗水市が姉妹都市提携の締結を交わし30周年の年で、麗水市で開催された2012麗水世界博覧会に併せ麗水市内での記念パレードや市民ツアーの実施、ならびに唐津市にて30周年記念式典を開催しました。

内容

①2012麗水世界博覧会での唐津くんちの曳山「飛龍」のジャパンデーパレードならびに麗水市内での姉妹都市提携締結30周年記念パレードの実施
「2012麗水世界博覧会」が2012年5月12日から8月12日までの3か月間、麗水市で開催されました。唐津市も姉妹都市提携締結30周年を記念して、6月2日のジャパンデーに、「国の重要無形民俗文化財」、「佐賀県重要有形文化財」である唐津市の伝統的祭り「唐津くんち」の七番曳山「飛龍」が約200名の唐津市民と共にジャパンデーパレードに参加しました。その後、「飛龍」は麗水市内へ繰り出し、姉妹都市提携締結30周年記念パレードと題し、毎年5月に麗水市で開



麗水市内での姉妹都市提携締結30周年記念パレード

催される「亀甲船祭」で使用される「燈風龍王（トンプンヨンワン）」と共に、夜の麗水市内を提灯や電飾をまとい、煌びやかなナイトパレードで両市民による日韓の交流を行いました。沿道に駆け付けた多くの麗水市民からも大変な歓迎を受け、両市の交流の歴史に新たな1ページを刻むことができました。

②2012麗水世界博覧会への高速船やフェリーによる姉妹都市提携締結30周年記念市民ツアー

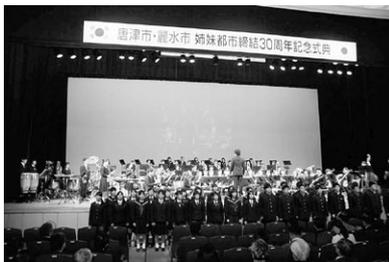
博覧会をきっかけに唐津市民に姉妹都市の麗水市をもっと知ってもらおうと、博多―釜山間を運行している、JR九州高速船「ビートル」による、唐津市―麗水市への直行便を博覧会期間中に6往復運行し、さらにフェリー「ニューかめりあ」の1運行を含め、30周年記念市民ツアーを企画しました。約1,200名の唐津市民が麗水市を訪れ、博覧会はもとより、市民交流や麗水市観光などを行いました。途中増便が出るほど大変好評をいただき、多くの唐津市民が麗水市を身近に感じる事ができたのではと感じています。



麗水世界博覧会期間中に実施した、唐津―麗水港直行便による市民ツアー

③唐津市・麗水市姉妹都市提携締結30周年記念公演

唐津・麗水市民による文化相互交流と両市の海を越えた絆をテーマとした、姉妹都市提携締結30周年記念式典・公演を2012年11月17日に唐津市にて開催しました。記念式典では、唐津焼の大皿に両市長が署名をし、30周年目の節目を力強く刻みました。また、記念公演では、両市の高校生ブラスバンド100名による演奏、麗水市立国楽団や唐津市のダンスユニット総勢150名による相互ダンスや演舞の公演を行い、来場



30周年記念公演での麗水工業高校と唐津市内5校の合同ブラスバンドによる演奏交流

した約800名の両市民を魅了し、両市の絆がより深まった瞬間でした。

事業実施にあたっての努力・工夫

麗水世界博覧会での30周年記念パレードや市民ツアーの実施に当たっては、博覧会開催の1年以上前から、国・県や各種団体・企業などとの打ち合わせや調整を継続的に行いました。中でも佐賀県重要有形文化財に指定されている唐津くんち曳山「飛龍」の麗水派遣には、国や県および地元との交渉から、市・県への予算取り、海外への運搬や韓国内での保管、麗水市内の交通規制を行ってのパレード実施など、さまざまな調整が必要で、多くの課題を乗り越えながら実施にこぎつけました。

また、麗水博への市民ツアーや唐津市での30周年記念式典でもそうですが、両市の多くの市民参加者や関係者の動向を把握することは、少ないスタッフで多くの業務をこなす必要があり非常に苦労しました。

しかし、そこでも30年間培ってきた、人脈や信頼関係により、また、多くの関係者の方々から、ご理解やご協力をいただき成功へと導くことができました。

今後の展望

唐津市と韓国の姉妹都市とは、このような友好交流関係を継続的に続け、国家間に摩擦が生じた時も、お互いの交流が途絶えることなく、より盛んな交流を継続して行っています。これは他の自治体には例のないことであり、現在、日本国内のみならず韓国政府からも特別な事例として注目を集めています。

これまで唐津市と麗水市ならびに西歸浦市とが取り組んできた人的交流から始まった国際姉妹都市交流は、人的な交流に限らず、物流、観光、商工業など産業分野での交流においても、これまでの取り組みで培われてきた揺るぎない友情、信頼関係を足掛かりに経済交流へと繋げ、相互の都市が発展していくことに期待しています。